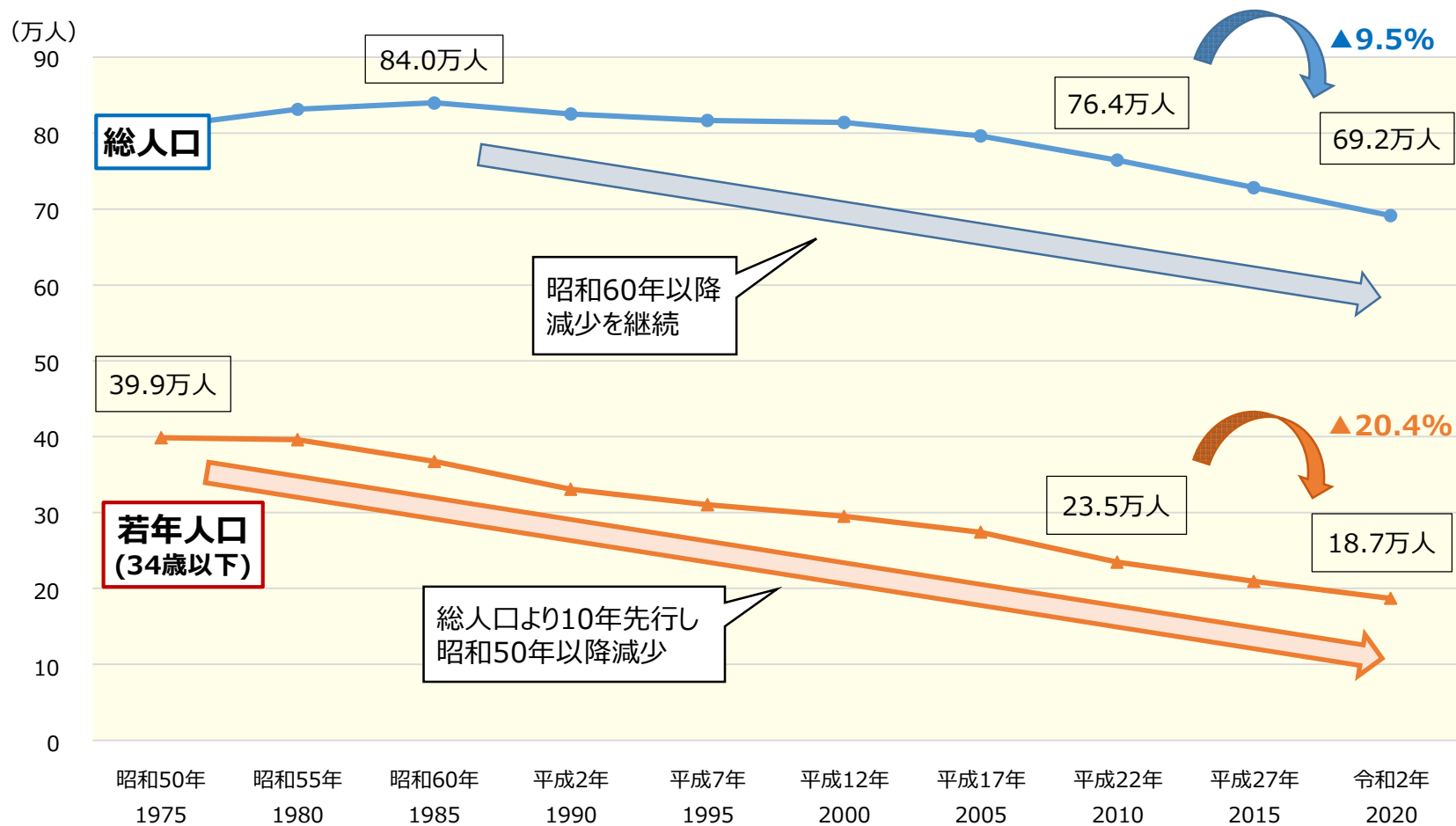


高知県の人口等の状況について

(1) 高知県の人口の推移

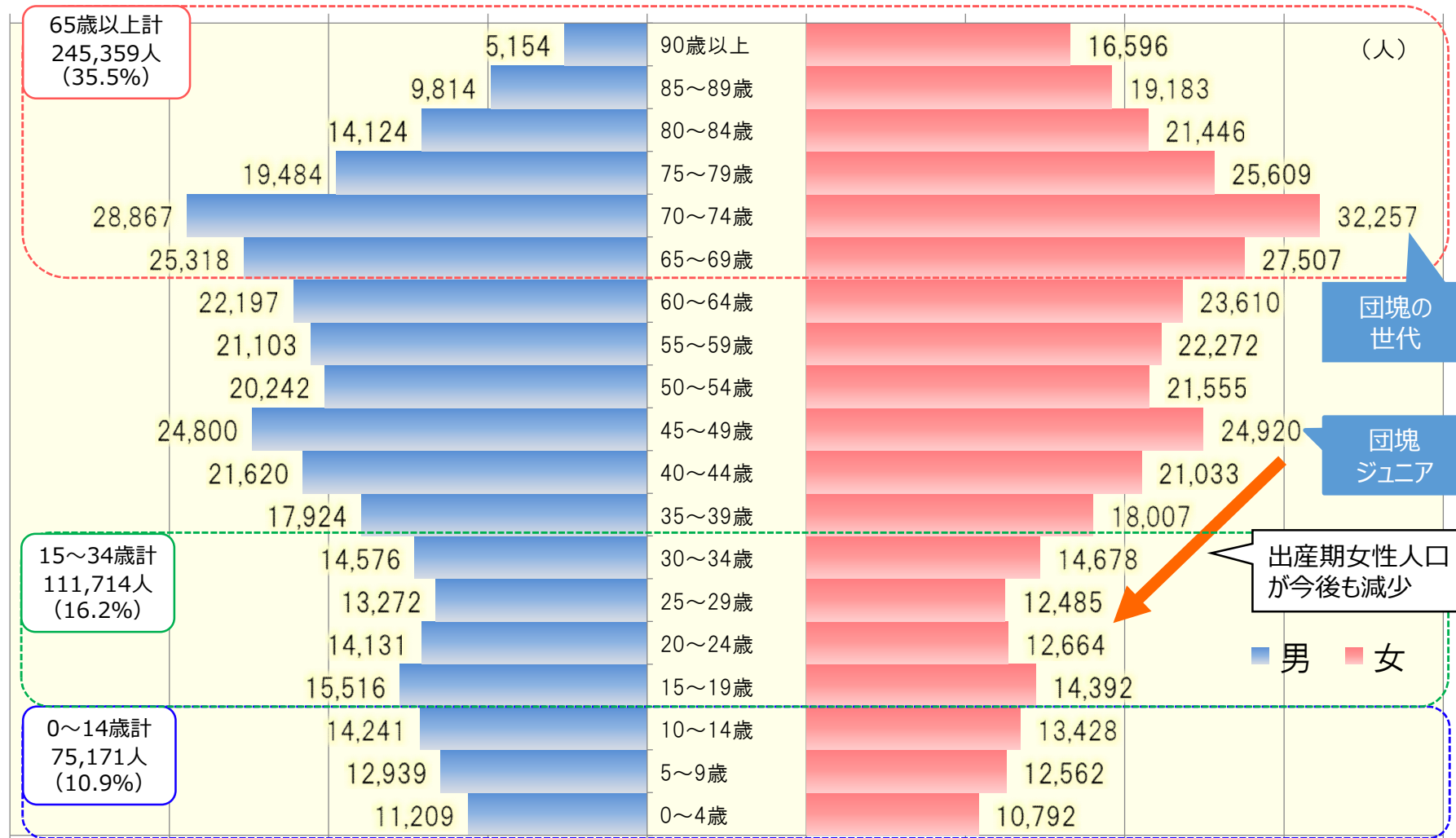
- 本県の人口は昭和60年の84万人以降年々減少し、令和2年は約69.2万人となり、人口減少の流れに歯止めがかからない状況（令和6年4月は659,592人）
- 若年人口（34歳以下）は、これに先立ち昭和50年以降、45年以上連続して減少
- 直近10年間（平成22年～令和2年）の減少率は、総人口（▲9.5%）に比べて、若年人口（▲20.4%）が大きい



(出典) 総務省「国勢調査」(各年10月1日時点)、高知県統計分析課「高知県の推計人口」(1月1日現在) (いずれも外国人を含む)

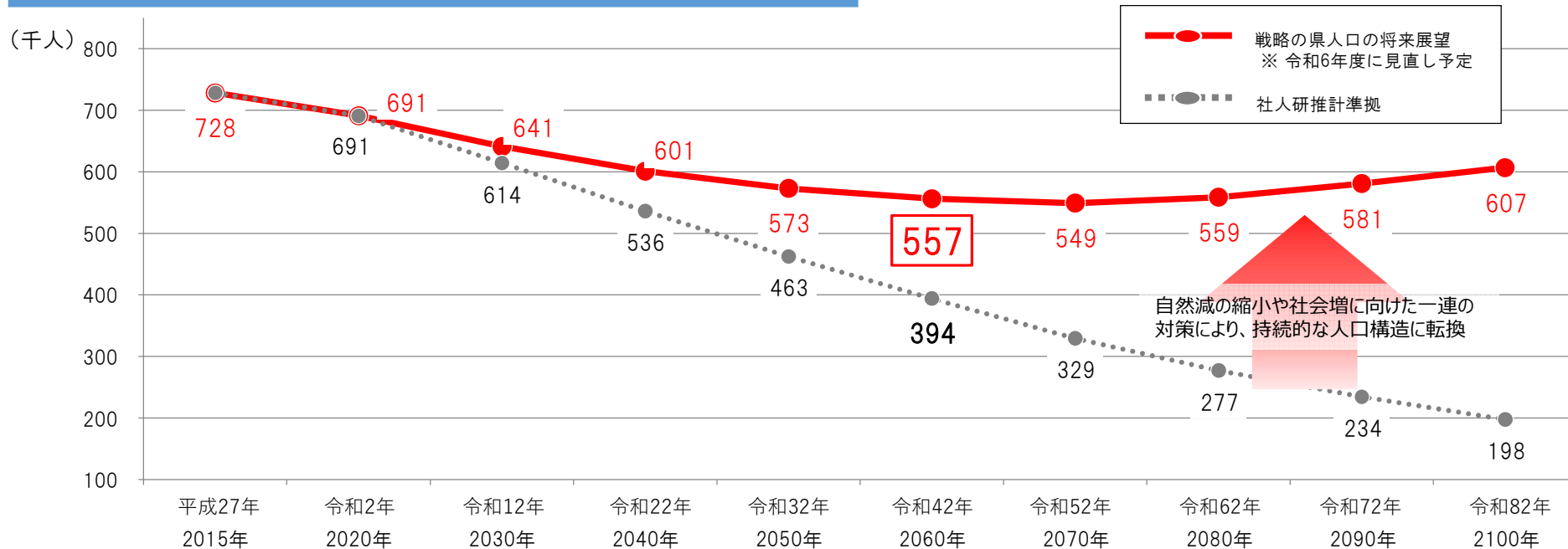
(2) 高知県の人口ピラミッド (令和2年)

- 高齢化の進行により、65歳以上の高齢人口が35.5%と総人口の1/3以上を占め、15～34歳までが16.2%、14歳までの年少人口が10.9%という人口構造であり、当面は人口減少が続くことは避けられない情勢
- 団塊ジュニア世代は出産期をほぼ脱し、出産期の女性人口は今後も減少傾向



(出典) 総務省「国勢調査」 ※年齢不詳補完結果を基に作成

(3) 高知県の人口の将来展望の概要



現状 ※第2期高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略策定時 (平成27(2015)年)

72.8万人

生産年齢人口の割合 (15~64歳) 55.6%
 年少人口の割合 (0~14歳) 11.5%
 老年人口の割合 (65歳~) 32.9%

出生率	1.51
既婚率 (25~49歳)	70.4%
第1子が生まれた年齢 (平均)	30歳

社会減 ▲2,265
 平成26~30(2014~18)年度の平均 ▲1,974

社人研準拠 (令和42(2060)年)

39.4万人

生産年齢人口の割合 (15~64歳) 47.3%
 年少人口の割合 (0~14歳) 9.5%
 老年人口の割合 (65歳~) 43.2%

令和22(2040)年以降

出生率	1.45
-----	------

社会増減は一定収束

高知県の将来展望 (令和42(2060)年)

55.7万人

生産年齢人口の割合 (15~64歳) 52.4%
 年少人口の割合 (0~14歳) 16.7%
 老年人口の割合 (65歳~) 30.9%

令和32(2050)年以降

令和22(2040)年 出生率	2.07
令和32(2050)年 出生率	2.27
既婚率 (25~49歳)	90.7%
第1子を欲しい年齢 (平均)	29.3歳

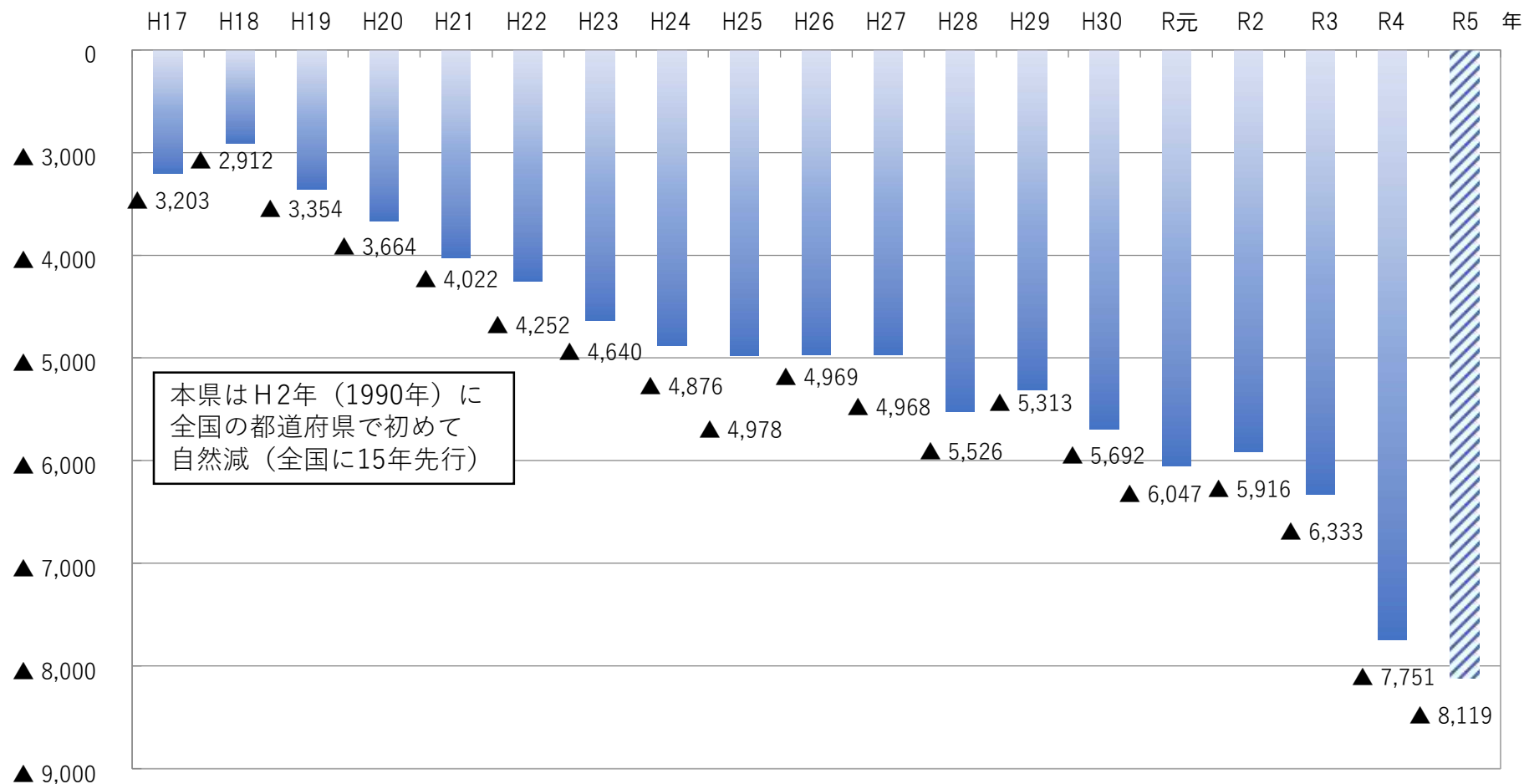
令和22(2040)年以降、社会増+1000人

戦略の施策の展開

2. 自然増減の状況

(1) 自然増減の推移

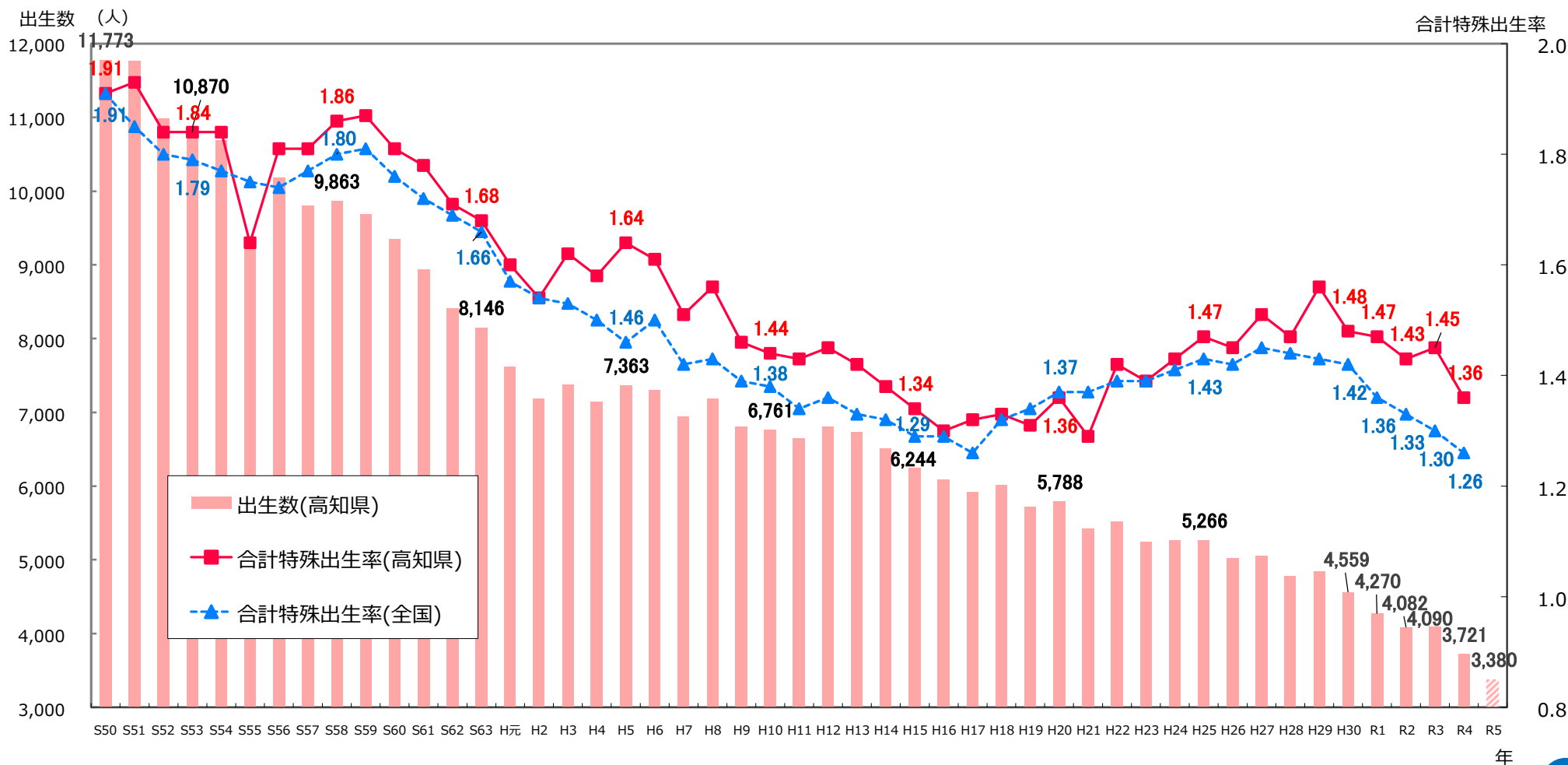
- 令和5年の自然増減数は、▲8,119人の減少
- 出生数は、3,380人と前年より341人（▲9.2%）減少
- 死亡者数は、11,499人と前年より27人（+0.2%）増加



（出典）厚生労働省「人口動態統計」（H17～R4）、高知県統計分析課「高知県の推計人口」（R5）（いずれも日本人のみ）

(2) 出生数の推移

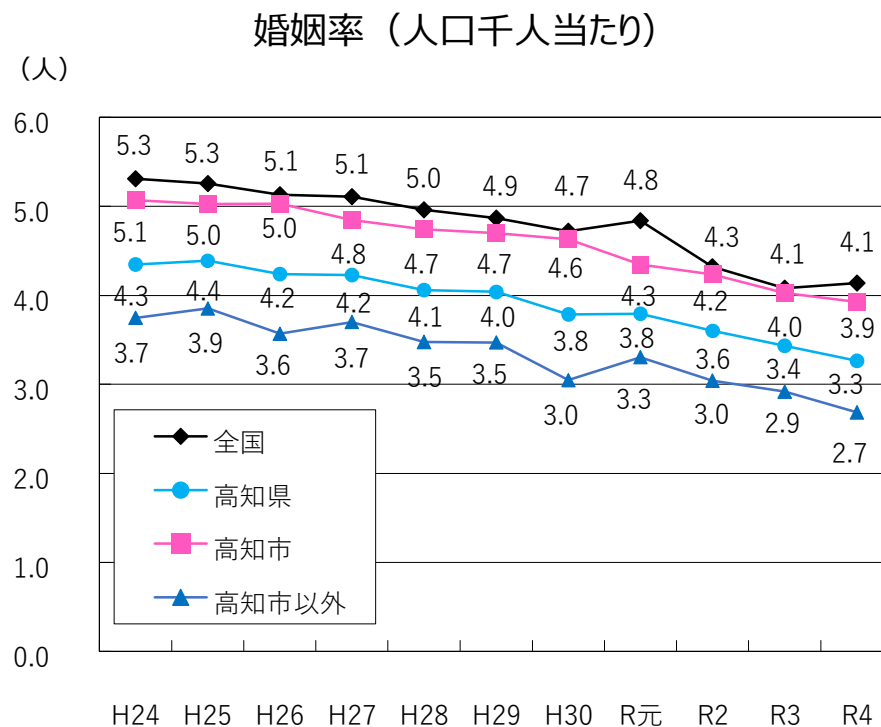
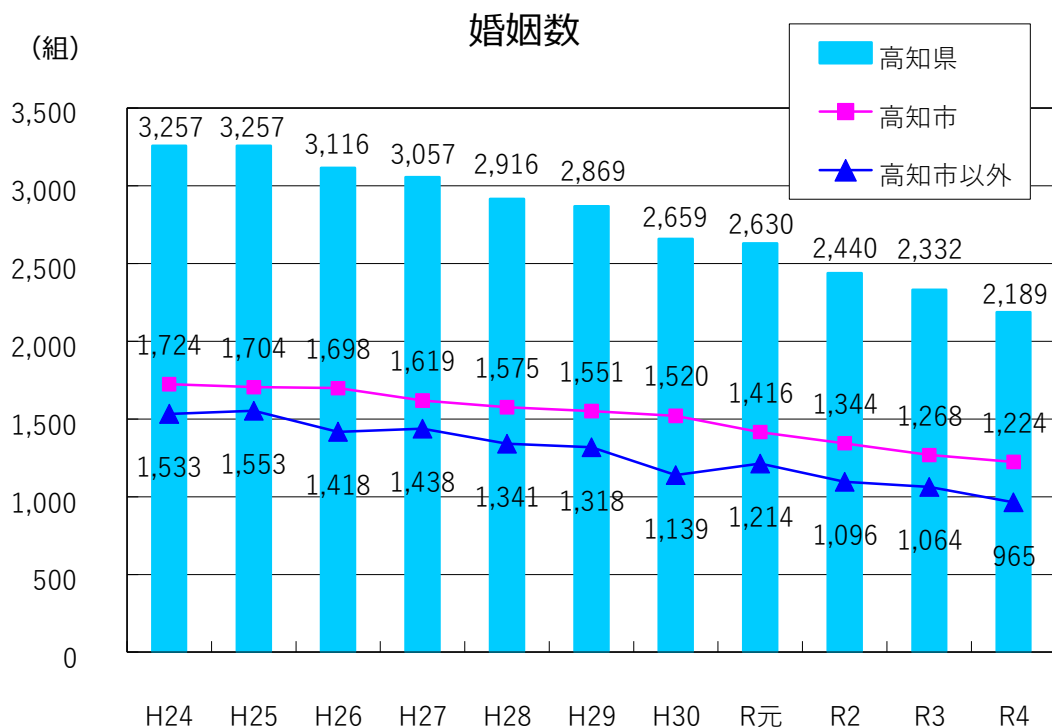
- 令和4年の出生数は、3,721人と、総人口が本県（68万2千人）より少ない鳥取県（54万8千人）を下回り全国最少
- 令和5年の出生数は、さらに大幅減の3,380人
- 令和4年の合計特殊出生率は、1.36で前年の1.45から0.09ポイント低下



(出典) 厚生労働省「人口動態統計」(H17~R4)、高知県統計分析課「高知県の推計人口」(R5) (いずれも日本人のみ)

(3) 婚姻数の推移

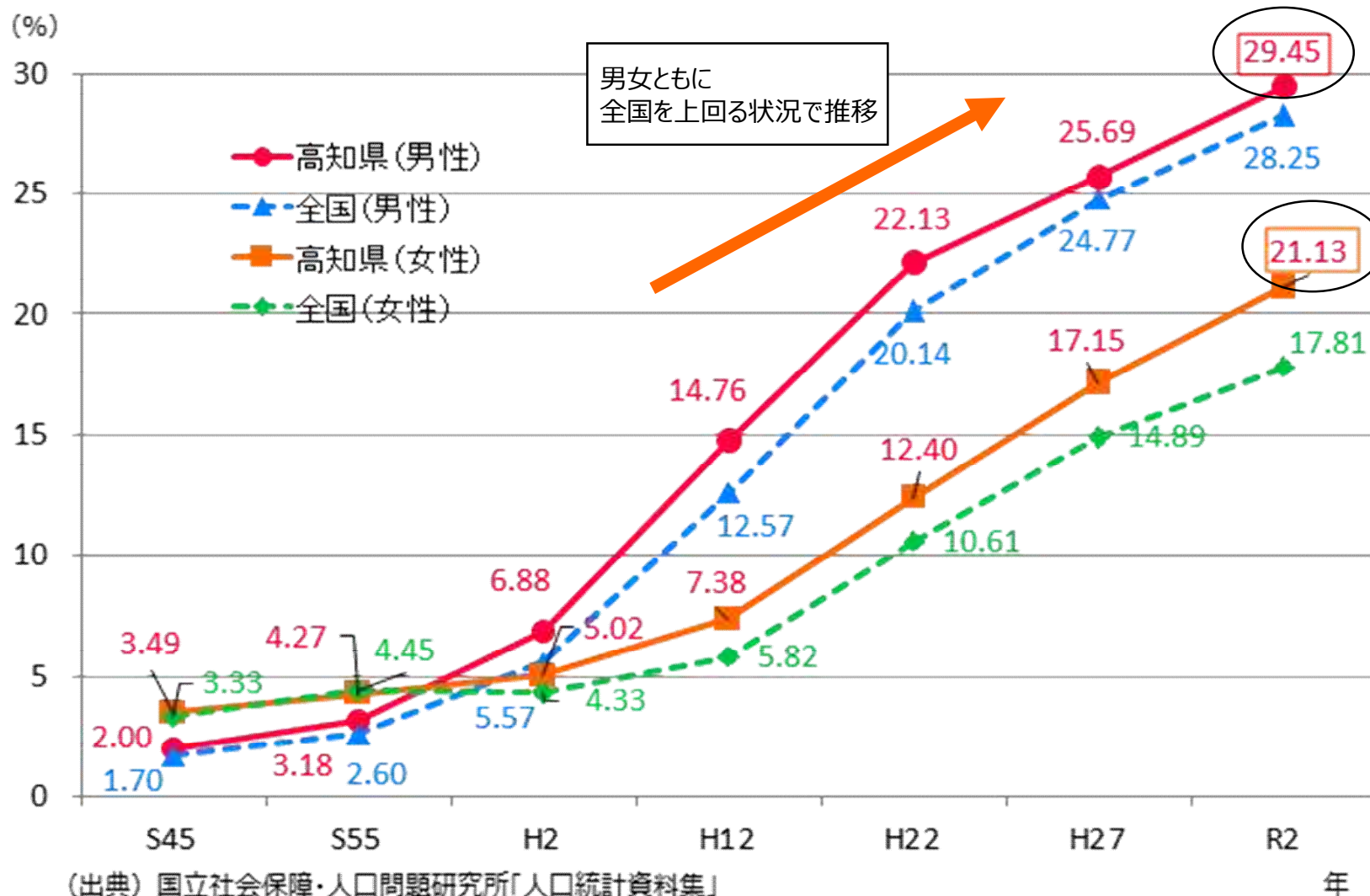
- **婚姻数の推移を見ると、平成25年以降、本県全体では減少傾向**にあり、令和4年は過去最少となる2,189組
- 令和4年の婚姻率（人口千人あたり）は、本県は全国と比較して、0.8人低い
- 高知市と高知市以外では、高知市以外が高知市と比較して、1.2人低い



出典：厚生労働省「人口動態統計」（暦年集計、日本人のみ）

(4) 50歳時の未婚割合の推移

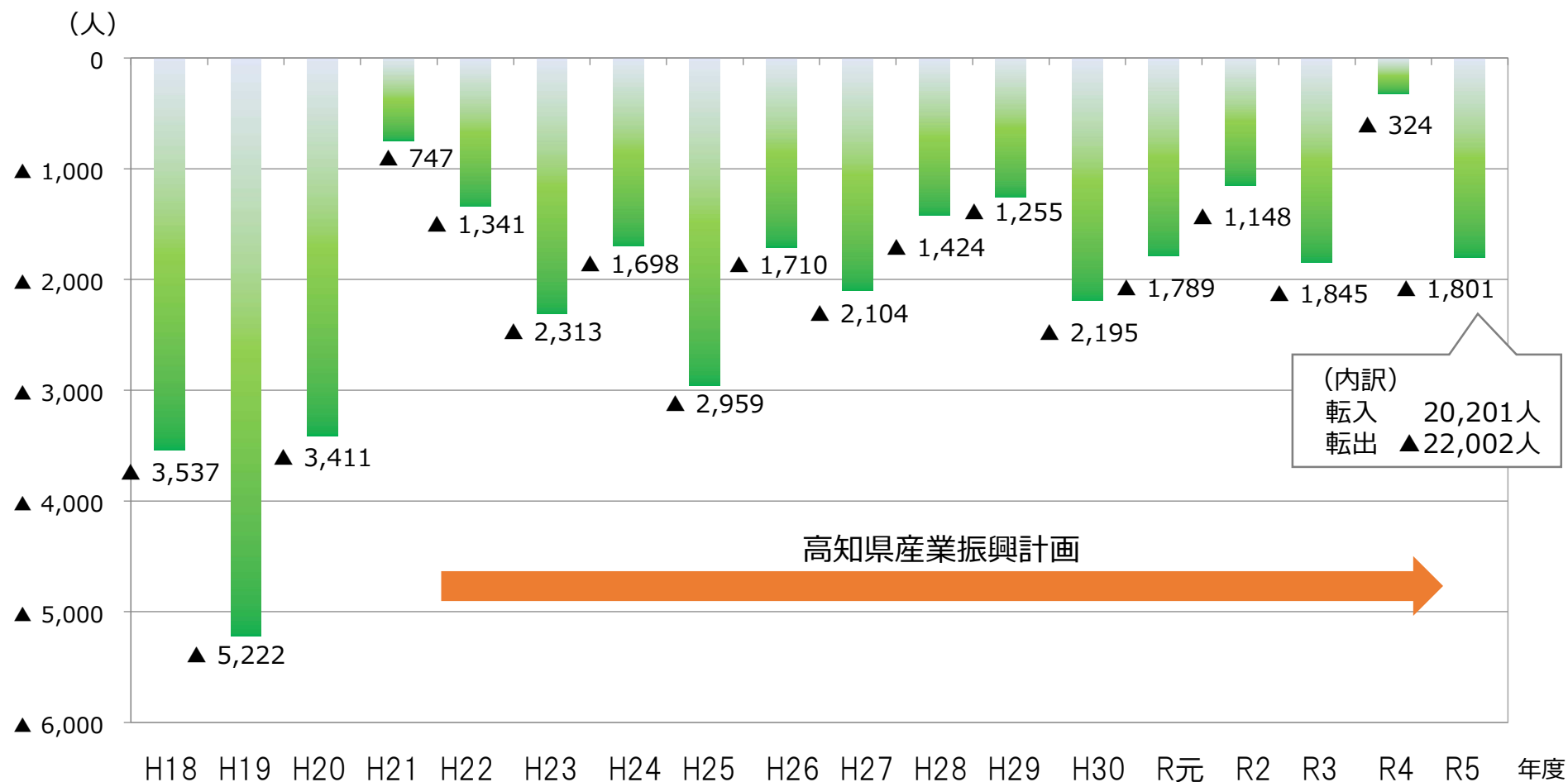
- 50歳時の未婚割合は上昇しており、令和2年では男性の約3割、女性の約2割が未婚
令和2年は、女性が東京に次いで全国で2番目に高く、男性が東京、埼玉、神奈川、千葉、岩手に次いで6番目に高い



3. 社会増減の状況

(1) 社会増減の推移

- 令和5年度の社会増減は、▲1,801人となり、前年度から1,477人の拡大
- 令和5年度は、日本人が▲2,512人と、前年度の▲1,397人から大幅に拡大したことが社会減の拡大に影響（外国人の社会増減は、+711人と前年度の+1,073人から社会増が減少）

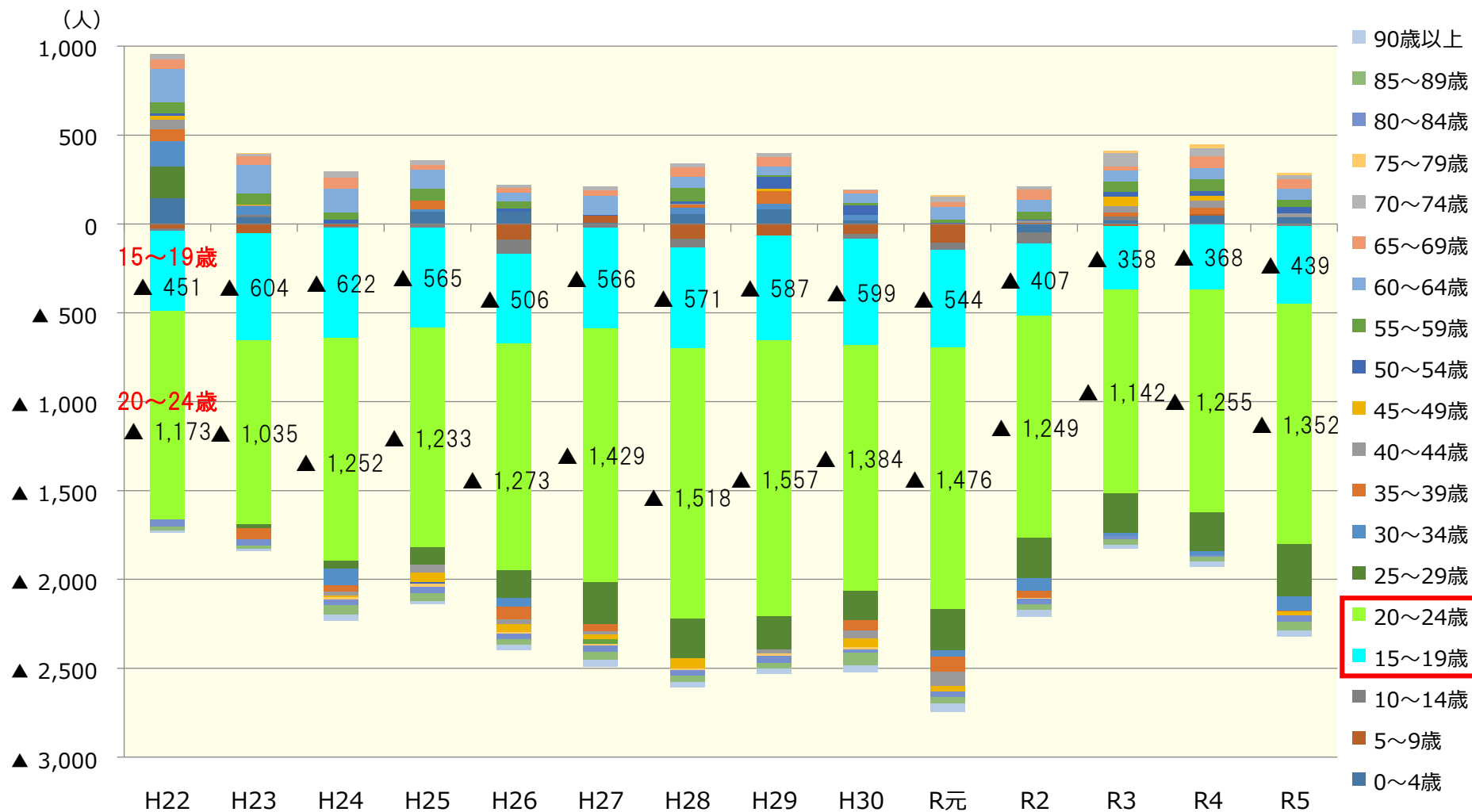


(出典) 高知県統計分析課「高知県の推計人口」(年度集計、外国人・国外との移動を含む)

3. 社会増減の状況

(2) 社会増減の推移 (年齢階級別)

- 社会減の割合が大きい年齢階級は、「15歳～24歳」
- この年齢階級の令和5年の社会減は、1,791人と、前年度から168人拡大

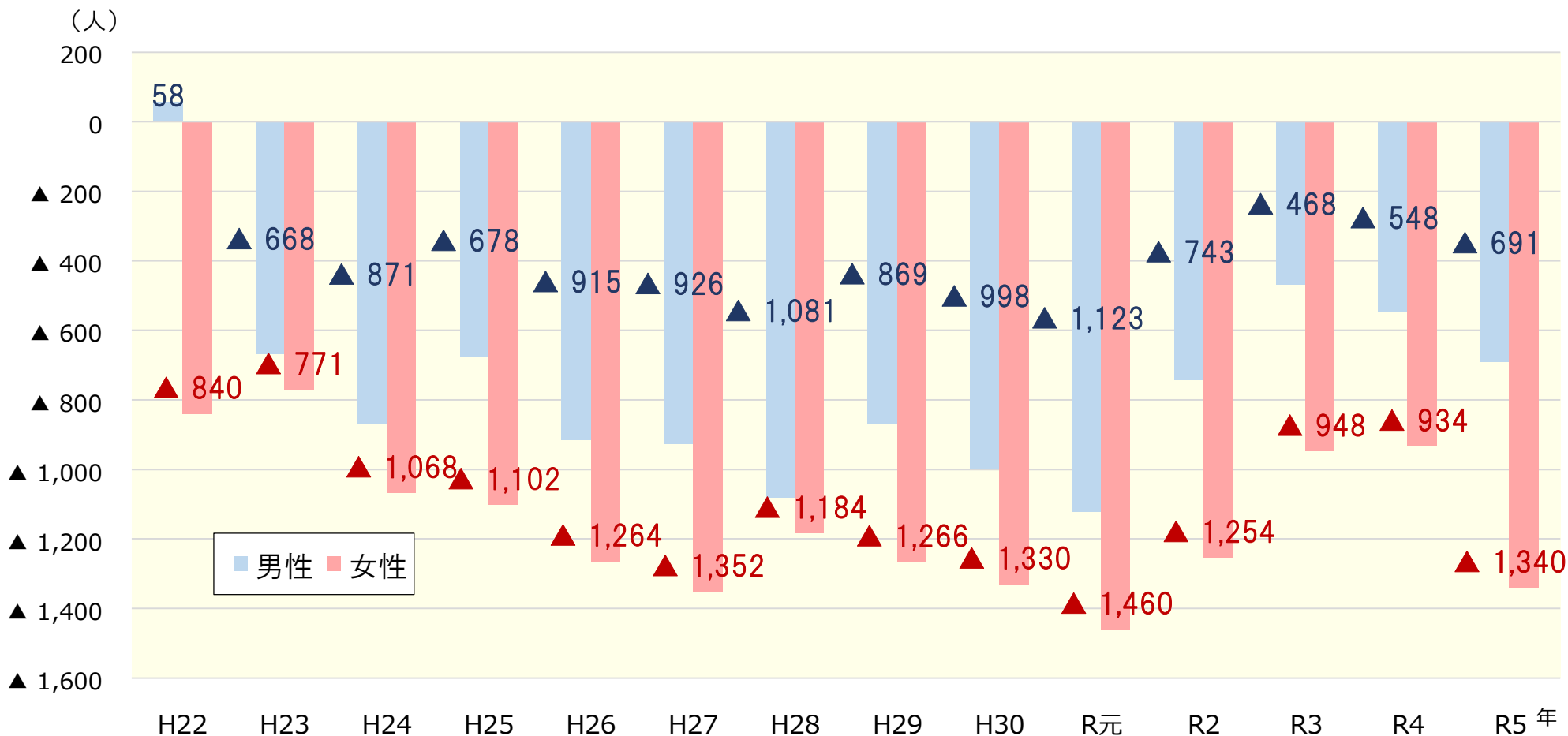


(出典) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」(暦年集計、日本人のみ、国外との移動を含まない)

3. 社会増減の状況

(3) 社会増減の推移 (男女別)

- 県外への転出超過は、一貫して女性が男性を上回る状況で推移
- 令和2年以降のコロナ禍において、その傾向が顕著となっている



(出典) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」(暦年集計、日本人のみ、国外との移動を含まない)

(1) 若年人口（15～34歳）の推移

- 令和2年の若年人口を10年前（平成22年）と比較すると、県全体では、女性が男性に比べて、2.5ポイント減少率が高い
- 高知市と高知市以外では、高知市以外の女性が△28.0%と減少率が最も高い

単位：人、%

		R2人口 (15-34歳)	増減 (H22比)	減少率
高知市	男性	27,829	△ 6,941	△ 20.0
	女性	28,972	△ 8,666	△ 23.0
	男女計	56,801	△ 15,607	△ 21.6
高知市以外	男性	27,355	△ 9,407	△ 25.6
	女性	23,654	△ 9,219	<u>△ 28.0</u>
	男女計	51,009	△ 18,626	△ 26.7
県計	男性	55,184	△ 16,348	△ 22.9
	女性	52,626	△ 17,885	<u>△ 25.4</u>
	男女計	107,810	△ 34,233	△ 24.1

(出典) 総務省「国勢調査」